

YA 通信

No.76 2017年7月号
春日井市図書館発行

YA(ヤングアダルト)世代=10代のみなさんのための読書情報誌です。ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階YAコーナー所蔵です。



YAコーナーに新しく入った本から
ピックアップ。

New!!



『東大留学生ディオオンが見たニッポン』 ディオオン=ニジェ=ティン/著 岩波書店 30/ト/17

ニッポンが大好きで、ついには東大に留学したシンガポール人のディオオン。「ひとことしだけ喋っていないのに『日本語お上手ですね』と言われる」「日本の生活に慣れすぎて、帰省中のシンガポールのコンビニで伊衛右門を探してしまう」などのエピソードや、東大のプログラム、体育会、コンパで同世代や社会に感じた戸惑いや共感が率直に語られています。

ただ「自分とは違うな、不思議だな」で終わるのではなく、著者なりの分析が記されていて、日本人というものの気質や外国との違いがよく分かる作品になっています。

この機会に、「ニッポン」について一度考えてみませんか？

名作 たからばこ



『星の王子さま』

サン=テグジュペリ/作 内藤 濯/訳

岩波書店 95/イ7/00 3階児童



飛行士の「ぼく」は砂漠の真ん中で不思議な男の子に出会いました。王子さまは自分が住んでいた小さな星からいくつもの星を回り、地球にたどり着いたのでした。王子さまは、旅に出ることになったいきさつや旅で出会った人々のことを「ぼく」に語り始めます。

もっと小さい人から読めますが、YA世代のみなさんやさらに大人になっても読んでほしい本です。短い物語の中に大切な言葉がたくさん詰まっています。

「本当に大事なものは目に見えないんだよ」というセリフ（本書では訳し方が少し違いますが）、耳にしたことありませんか？読めば読むほどいろんな発見がありそうですね。

テーマ
短編集

スキマ時間にさっと読めるのが、**短編集**のいいところ。
みなさんの“スキマ時間”を素敵に時間を変える、選りすぐりの本たちをご紹介します。朝少しだけ早起きして、登下校の電車やバスの中で、お店の順番待ちで…
ぜひ読んでみてください♪



『ZOO』 Z- /著 集英社 F/オツ/03

Z-にしか書けない短編集です。独特の乾いた文体で語られる10の物語。

物語の中で、非現実的なことが淡々と進んでいく様子は、何か奇妙な世界に引き込まれたような感覚を覚えます。全体的にはダークな雰囲気、簡単に「ミステリー」「ホラー」のひと言でジャンル分けをすることができません。残酷な表現もあるので万人受けはしないかもしれませんが、このZ-の世界観にハマってしまう人もいます。

2005年に映画化、2006年にマンガ化された本です。

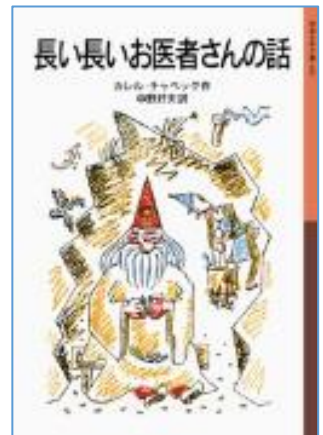
『長い長いお医者さんの話』 カレル=チャベック/作 中野 好夫/訳

岩波書店 98/イフ/00 3階児童

「ロボット」という言葉、今では当たり前のように使われていますが、チェコの文豪カレル・チャベックの作品に登場したのが始まりなんです。この本はそのカレル・チャベックによる童話集です。

タイトルにもなっている『長い長いお医者さんの話』では、魔法使いが梅の実のどに詰まらせてしまい4人のお医者さんが呼ばれます。お医者さんたちは魔法使いの病気のことをああでもないこうでもないと言い合い、その合間に今までに出会った風変わりな患者のことを語ります。

魔法使いや王様、妖精やカッパまで出てくるにぎやかで楽しい民話風の物語が9編入っています。



『17歳のうた』 坂井 希久子/著 文藝春秋 F/サカ/16 4階一般

タイトル通り17歳が主人公の短編集で、京都の舞妓として働く彩葉が東京の友達に会いに行く『Owner of Lonely Heart』をはじめ、青森・福岡・和歌山・山形で暮らす少女たちのお話が1篇ごとにつづられていきます。

読んでみると、同じ体験をしていないのに「その気持ち、わかる!!」と感ずいてしまいます。

17歳の人もそうではない人も読んでほしい1冊です。

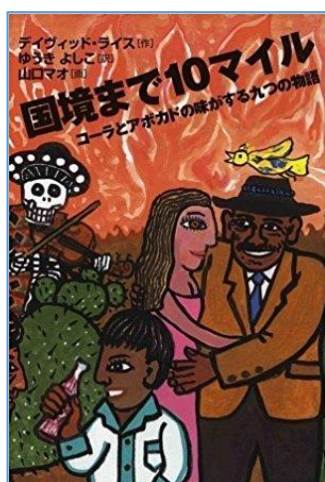
『車夫』 いとう みく/著 小峰書店 913/コミ/15

人力車、乗ったことはありますか？重そうな見た目ですが、ひき手のお兄さんはすいすいーっと走っていて、座席も意外と安定しているんです。この本は、そんな人力車のひき手“車夫”の世界に飛びこんだ少年と、そこで出会う人たちとの心のふれあいを描く連作短編集です。

作品全体を通して、人の温かさや心地よい静けさを感じられます。読み終えたあとは、とても穏やかな気持ちになれる本です。



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『国境まで10マイル コーラとアボカドの味がする九つの物語』

デイヴィッド=ライス/著 ゆうき よしこ/訳 山口 マオ/画

福音館書店 93/フク/09

物語の舞台はテキサス州の最南部、リオ・グランデ・バレー。9つの物語の主演は全てそこに暮らすメキシコ系ティーンエイジャーたちです。

恋やダンスパーティ等のラテン系な明るいテーマと、差別・貧困等のマイノリティなテーマが混在しますが、全ての物語に共通するのは彼らの輝くようなエネルギー！エネルギーを漲らせているのは彼らだけじゃない、大人もお年寄りも…登場人物みんなです！

普段国境を意識することない我々日本人ですが、そのたった一本のボーダーが人々の暮らしを変えている…ということにも思いをはせながら読んでほしい、オススメの一冊です。

話のタネに！



テーマ：将棋



今、世間で注目を浴びている14歳の藤井聡太さんは、中学生でプロ入りを果たした5人目の将棋の棋士で、春日井広報大使を務める春日井市出身の女流棋士・室田伊緒さんとは同じ門下になるので、姉弟弟子になります。

藤井さんの活躍をテレビや新聞で知って、将棋に興味を持つ人が増えています。みなさんも、棋士たちの将棋にかける思いに触れてみませんか。



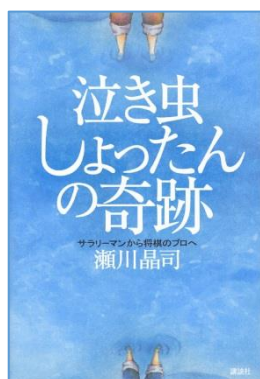
『泣き虫しよったんの奇跡 サラリーマンから将棋のプロへ』

瀬川 晶司/著 講談社 796/ナ/07

サラリーマンから将棋のプロになった瀬川晶司さんの自叙伝。

26歳という年齢制限でプロになる夢が絶たれてしまい、将棋を捨てても本当に諦めることができず、著者の努力と周りの人々の助けもあって、異例の35歳で夢を実現させます。

挫折して泣きたくなったら、この本を読んでください！
きっと勇気を与えてくれます。



『聖の青春』 大崎 善生/著 講談社 796/サ/12

名人への挑戦権をかけて戦う、将棋界のトップ「A級」に在籍したまま、29歳で夭折した村山聖という棋士を知っていますか。

5歳の時に難病「ネフローゼ症候群」にかかり、常に死と隣り合わせの毎日を送りながらも、後に史上初、7冠を達成する羽生善治のライバルと目されてきました。自身の命を削りながら、将棋一筋で生き抜いた村山の姿は、私たちの胸に迫るものがあります。ぜひ、一度、読んでほしい一冊です。





YA担当イチオシ!

『日本人ですが、
ただいま日本語見習い中です!』

ふじい まさこ/著 学研教育出版 810.4/ニ/14 4階一般

どんな本?

辞典編集部でバイトすることになった大学生のミホと一緒に日本語について楽しく学ぶことのできるコミックエッセイです。

ここがオススメ!

「こんにちは」の「は」はなぜ「わ」ではないのか・・・など普段意味まで考えずに使っている言葉ってありますよね?

私たちは最近、日本語の美しさや意味を海外の方から逆に教わる事が増えてきました。「それではダメだ。」と思っていても一から学ぶのって難しい。日本語は世界一難しいとも言われていますし・・・

この本は、言葉の意味、使い方をマンガで教えてくれます。中には、社会人が使うものもありますが、大人になったとき少しは役に立つはずですよ。

素敵な日本語を意味がわかった上で使ってみませんか?

※ちなみになぜ「こんにちは“は”」かは、本を読んでみてくださいね☆

YA(ヤングアダルト)コーナーって?

図書館3階雑誌コーナーのとなりです。たとえば、こんな本があります。

- ◎10代向けの小説・読み物
- ◎勉強・進路・職業に関する本
- ◎いろんな悩みの解決に役立つ本
(学校生活・友だち・恋愛・家族・心と体 など)
- ◎自分の世界を広げるための本(趣味やスポーツ)

「〇〇について調べたい!」
「△△の本はどこ?」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



春日井市図書館

春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

ケータイサイトはQRコードから→



※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。